

地区協議会における主な意見について

(共通)

- ・農地をどう守っていくかが課題。荒れた状態になると借りる人もいなくなるし、隣の農地にも悪い影響が出てくる。農家だけの話ではなく、地域としてどう土地を守るか、地域全体の話し合いの場を設けることが必要。
- ・米価下落に関する支援を検討してほしい。ただでさえ需要が減ってきている中、今回のコロナの影響による米価下落が決定的となって、稲作を辞める人が出てくる。
- ・基盤整備については、所有者からの 100%の同意がネックとなって、なかなか進められていない。農地の保全と、収益向上に向けた生産の効率化には、基盤整備は必要であり、少しでも動き出さなければならない。会話を継続していくしかない。
- ・農産物の単価が上がらない中、資材の高騰がひどい状況にある。新たにパイプハウスを建てる人や機械を買う人が出てくる状況にない。現状維持するだけで精一杯の農家がほとんどである。

(市川地区)

- ・小麦・大豆はそれだけで生活できない。大豆の営農組合は高齢化が進み、後継者もない状況であり、人の確保ができず作業が大変な状況にある。法人化も難しい。転作の助成が無ければ成り立たず、継続した国の支援が必要である。
- ・いちごは収益のある新しい品種の開発が必要。このままだと、新たに取り組む人は出てこない。担い手もおらず減退する一方である。新品种の開発には時間がかかるため、ブランド化に向けた取組を継続しながら、平行して進めてほしい。
- ・八戸には日本有数の飼料穀物コンビナートがある。飼料米の産地化を想定した基盤整備も検討してはどうか。加えて転作助成もあれば、市川は場所も近く運搬にも便利であるため、可能性があると考える。

(下長地区)

- ・現在、基盤整備に向けた話し合いを進めている。所有者の同意も何とか揃えられそう。できる場所から進めていきたい。本当は集落営農の組織化までいければよいが難しい。
- ・水稻は、基盤整備する区域内には担い手になる人が3人くらいしかいない。圃場整備をして、その人たちに集めていくしか方法がないのが現状。
- ・草を燃やすと苦情がでるため、清掃事務所に持っていつているが、金額が高すぎる。何か支援を検討してほしい。

(下長地区・上長地区)

- ・笹ノ沢の耕作放棄地がひどい状況になっている。国道 45 号沿いで見た目も悪く、市として何らかの対策を検討してほしい。

(館地区)

- ・野生鳥獣害の対策を検討してほしい。目撃事例や実際の被害も増えてきている。
- ・りんごは、違う品種への切り替えではなく、ももなどの別の果樹に切り替える方向になっている。なしを栽培している人もいるが、まだ振興農産物とは言えない状況。
- ・紋羽病はずっと付き合っていかなければならない病気。効果のある新しい薬を開発してほしい。

(上長地区)

- ・稲作では、新しい品種の開発を検討してほしい。まっしぐらは出始めは良かったが、もう八戸の気候に合わなくなってきている。南部地域に合う強いお米で、収穫時期が遅い品種が望ましい。県は津軽地域で青天の霹靂に力を入れているが、不公平さを感じる。
- ・ピーマンは種の改良をしてほしい。もっと作付けする農家が増えるのでは。
- ・国の機械等購入への補助事業は、年々ハードルが上がっていて、中小規模の農家では採択されない。大規模農家だけが採択されている状況であり、中小規模の農家向けの制度を検討してほしい。
- ・小さい面積の農家が減ってきてはいるが、割合としてはまだまだ多い。そういった小さい農家を見捨てないような支援策も必要である。
- ・若い人は機械を扱うのも上手である。新規の就農者がでたら、みんなでサポートして育てていかなければならない。

(豊崎地区)

- ・担い手の確保が切実な問題となっている。地区だけで考えられる問題ではなく、周りの地区の農家も含めて検討していかなければならないと考える。
- ・基盤整備は中心となって進める人がいない。以前は豊崎の農協が中心となったが、農協合併によってなくなってしまった。現在、五戸からの新しい道路（バイパス）が整備中であり、その計画と合わせて、基盤整備を検討していく。
- ・重量野菜の農家は5年後には数人になるかもしれない。軽量野菜への移行を進めていかなければならない。

(南浜・美保野地区、旧市内)

- ・アスパラガスは軽量でよい作物だと思うが、主力のトマトを平行して栽培するのは難しく、定着しなかった。
- ・野生鳥獣額の対策を検討してほしい。目撃事例や実際の被害も増えてきている。

(大館地区)

- ・畑が多い地区になるが、点在しており集約できる土地柄ではない。
- ・面積を増やしても、赤字が増えるだけというのが現状。所得を増やすという目標があっても、実際どうやって増やせるのか。高収益とされる作物も保証されているわけではない。

- ・軽量野菜のピーマンといっても高齢者には大変な作業になる。今 70 歳でも若いほうで、高齢者とは 80~90 歳の人。そういった人に違う作物をと言ってもやれない。
- ・兼業だから成り立っている部分がある。農業以外の安定収入がある。農家一本ではなかなか生活していけない。農家が稼いでいける制度づくりが必要。認定農業者制度もメリットを増やしてほしい。
- ・直売所など販売する場所をもっと作ってつくってほしい。農家は売っている時間もないため、農家自身が店頭にいなくてもよい仕組みが望ましい。

(島守地区、中沢地区)

- ・葉たばこは栽培をやめる人がかなりいると思う。振興農産物には入れづらいのでは。ただ、栽培を続けている農家もいるし、需要に合わせた収穫量の確保は必要である。
- ・そばは、高生産・高収益にはならない作物だが、作付けする農家が増えてきているので、南郷そば振興センターと話し合いながら、具体的な振興計画が必要だと考える。
- ・平原地区は今後どのように振興していくのか。将来展望を話し合いしなければならない。
- ・ワイン用ぶどうは、葉たばこに代わる作物として、市のプロジェクトとして進めてられてきたが、まだまだ収益として足りていない。生産者への技術支援等が更に必要である。このままでは新しく取り組む人も出てこない。
- ・農産加工や女性活躍の場についても計画に記載したほうがよい。ジャムや漬物など頑張っている人がいる。
- ・新規就農者が増えることにとっても期待している。既存農家はこれ以上生産を拡大していくことは無理であるが、新規就農者に教えていくことはできる。ひとりの新規就農者が上手く定着すれば、他に就農したい人も出てくる。よい循環となっていくのでは。

(是川地区)

- ・葉たばこ農家はほぼいなくなってしまった。次に何を植えるべきか、早く方向性を示してあげないと、そのまま放棄地となってしまう。
- ・農家の中には、農地も機械もただで貸すからやってくれ、という人までいる。高齢化が進んで、現状も維持できない。岩ノ沢にはまだ若い人がいるので、集積できればと思う。
- ・稲作は中山間地であり、基盤整備の話はない。農地の現状維持のためには直接支払制度の継続が必要である。